

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ シーボルト 矢島 とも ブラインドタッチ 小沼恵里子
3 ページ 傾聴活動をして 横川千香子 春はあけぼの 林 久子

大久保忠朝

金井義彰

京成志津駅から成田街道を勝田台方向にしばらく行くと、右側の店のまえに江戸時代の常夜燈や道標をまとめて置いてあるところがあります。そのなかに七代目市川團十郎が建てた成田山道標があります。

この道標の一面には、「天はちち 地はかかさまの清水可那」の句が彫られています。「かかさま」は、かか様に、八代佐倉城主大久保忠朝の官名の加賀守を掛けたもので、井野の名所「加賀清水」は、忠朝が、この近くから湧き出る清水を賞味し江戸参府の折りに立ち寄るようになったことが、その名称の由来です。忠朝は、徳川家康、秀忠、家光の三代の將軍に仕えて天下のご意見番としてお馴染みの大久保彦左衛門の甥の忠隣の三代後になります。鉾山奉行をしていた大久保長安が

死後、長安の悪事が露見し累が忠隣にまでおよび小田原領は没収され、大久保家は幕閣から退けられ六十年の間不遇の時代を余儀なくされます。

その大久保家の再興を果たしたのが忠朝でした。忠朝は、養父忠職の肥前唐津の遺領を継ぎ四代將軍家綱の恩寵を得て老中となり幕閣に復帰します。唐津から佐倉八万三千石の城主に転じたのは延宝六年（一六七八）でしたが、八年後の貞享三年、小田原十万三千石の城主となり念願の父祖の地に帰ることができました。忠朝の人柄を偲ぶものに、小田原に移ってから造成した庭園があります。JR浜松町駅の東側に旧芝離宮庭園があります。忠朝が老中就任に際して幕府から拝領した江戸の屋敷地に造成した楽寿園がその始まりです。忠朝がここ

を拝領したのは延宝六年でしたので、佐倉時代に拝領していたこととなります。

この庭園のある辺りは当時、江戸湾の波打ち際でした。池の中央には、仙人が住むという蓬萊山を表わした中島があります。中国の杭州は、西湖を中心とした景勝地として世界的に知られていますが、西湖を模して造られた西湖堤が中島に通じています。池には海水を引き入れていたため、潮の干満によって水面が変化するという趣もありました。庭園に入って間もなく池の手前に大きな藤棚があります。四月から五月にかけて、樹齢二百年の藤が見事な薄紫色の花を咲かせます。この楽寿園は、その後、所有者が代わり明治になつて皇室の芝離宮になりましたが、大正十三年の皇太子ご成婚を記念して当時の東京市に下賜され、旧芝離宮恩賜庭園として公開され今日に至っています。

(編集委員)

シーボルト

シーボルトは江戸時代、日本へきて医学を教えたオランダ人だと単に思っていた。本当はドイツ人だった。オランダ政府に雇われて、日本の博物の収集という使命を帯びた人物だった。医学の伝授を隠れ蓑にして、日本の博物の収集をしたのだった。

日本は外国文化を吸収する素地、気運ができていた時代だった。医学に限らず天文学、本草学など、吉宗以降日本人が希求していたものをシーボルトがくれたことは確かだった。

実際には鳴滝塾という学校をつくった。塾生たちは全国から集まり、シーボルトは論文を課して日本の資料の収集に役立てたという。特に、植物。

ヨーロッパは氷河時代に絶滅にあって植生が極端に少ない。シーボルトは長崎の緑の

多さに感嘆したという。

いま、イングリッschussガーデンなどともてはやされているが、プラントハンターたちが世界中から植物を集めたからできたのである。シーボルトはプラントハンターの草分けだった。

シーボルトをとりこにした日本の植物は多数。なかでもアジサイ、レンギョウ、ツバキ、サザンカ、ウメ(梅干は苦手だった)。イタドリなどの雑草にも注目。シキミ、コウヤマキ、キリなどの木も。ユリは西欧人を狂喜させたという。テッポウユリは教会の花の座を奪った。ただ、ヤマユリは途中で腐ってしまったという。

これらの木、花が普通にすることに日本のゆたかさを再認識している。

参考 『花の男シーボルト』
大場秀章 著

(上志津原 矢島 とも)

ブライントタッチ

私の一日はパソコンとともに始まる。というのはオーバ―だが、日々かかせない相棒である。仕事上、職場で使うことが多いため、その練習もかねてのことだが休みの日は大抵一日二回位、パソコンと対峙する。

もう五年もたっただろうか。自宅で脳梗塞で倒れ二週間入院したことがあった。幸いにも軽くすんだのだが、左半身が全く動かない時はすこぶるあせった。退院してリハビリに励み、腕を使いながら何とか左手を動かすことができるようになった。だが、指の方はまだまだ。細かい作業ができない。仕事に復帰すれば、その日からパソコンのキーがうてなくてはならない。指先のリハビリにパソコンにむか

った。最初はネットオークションへの参加。すきな雑貨を探す。本への興味が復活して

くると闘病記を探した。こうして、キーボードと格闘する日々が続いた。なかなか動かなかった小指が動いた時は、ヤッターと思った。

今、幸せにも職場にいて、同僚に迷惑をかけながらも、今日まで生きながらえてきた。

ピアノをひくと脳の老化を防ぐ云々をきいたことがあるが、キーをうつのも(両手で)同じだと自分では思っている。趣味と実益をかねての日々、パソコンに向かうと相なった訳である。最近は目の疲れも出るようなお年頃になったが、めげずに新しい情報収集に励んでいる。

(西志津 小沼恵里子)



傾聴活動をして

二年前一枚のチラシに目が。そこには傾聴ボランティア養成講座のご案内「心のふれあいボランティア」と書かれていました。平成十九年二十五名の仲間と講座を受け、九月より介護施設で先輩と共に活動させていただいております。人の話を聞くときの一般的なパターンは、話に興味がなければ大抵は聞いていない、話の腰を折り自分の話したい内容に変えてしまう、自己流に聞いている、など自分を振り返ると思います。一人思い悩むことがあるとき、誰かに話しただけで気持ちが悪くなったという経験の持ち主は多いのではないかと思われ

ます。

昼食後フロアーに休息されているところにかがいが活動させていただいています。言葉にならない声をじつと聴きとり、相づちとアイコンタクトをとりながら繰り返すうち、理解できない話の内容も霧が晴れるように理解できることもあります。一言も発せず険しい目でにらみ近寄ることすら拒否され続けた方にただ寄り添い、手を握りしめていると次第に目尻が下がる様子が感じとれました。このように心の動きを聴くことは無償の喜びであり、自分を見つめ直す機会となりました。

季節の草花・行事・童謡・唱歌を交じえ、お一人お一人に対し手探りながら、相手の立場になってありのままの姿を温かく受けとめ、心の動きに応答し心のつながりを大切にしたいと思えます。常にほほ笑みをたやさずそよ風のように活動し続けていけたらと思っています。

(中志津 横川千香子)

春はあけぼの

毎朝近くの公園で、参加自由のラジオ体操に行っている。家から歩いて公園に行く道は、両側が広い田んぼで、近くには竹林もあり、ざわざわと竹のなる音が聞こえる日もある。春浅い朝、冬枯れの田んぼ一面に霧が立ちこめ、五十元先も見えない程。やがて灰色の空に、うすオレンジ色の日輪がぼうつと浮かび、空と霧と日輪と、それは美しい一幅の絵のようだ。遠くの森も紫色にかすんで、しばし足をとめて、自然のおりなす美しさに息をとめる。こんな美しい光景に一生のうち何度あえるだろうか。

いつしか空も明るくなり、日輪もはつきりし、霧も晴れて、早春の風が冷たく感じられる。

この幸せ、お寝坊さんには、残念ながら味わえないでしょうね。

(稲荷台 林 久子)



K.T feb.09

3月の黒板

平成21年度佐倉市民カレッジ受講生募集のお知らせ

健康で生きがいをもちながら、住みよいまちづくりを考え、地域で活動することを目指す学習です。1・2年生は「であい課程」で一般教養を学び、3・4年生は「専攻課程」で学びを深めます。

入学資格 市内在住で4年間継続して通学できる40歳以上のかた（再入学不可）

募集定員 100人（60歳以上80人 40歳以上～59歳以下20人）
（年齢は平成21年4月1日現在。定員を超えた場合は抽選）

願書受付 平成21年4月1日（水）～7日（火）午前9時30分～午後4時
中央公民館へ本人が持参

学 習 主に金曜日（学習日数 年間35日程度）講義、話し合い学習、校外学習など

修業年限 4年 **費 用** 年額10,000円（材料費、保険料などは別途負担）

*詳しくは、入学案内・入学願書が市内の公民館・図書館にありますので、ご覧のうえ応募して下さい。

お問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）

電話 (043) 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくわく道

普通の市民ランナーにとって、フルマラソンでの三十キロすぎは地獄だ。
練習では三十キロぐらいが限度で、それ以上は一人ではとても走れたものではない。
大会となると様子は変わる。大勢の老若男女がひとところ集合し、ヨーイドンで駆けつこを始めるのである。こんなことは日常ではまずない。
市民マラソン大会は祭りだ。

祭りで観衆が欠かせないように、市民マラソン大会では沿道の観衆が欠かせない。その声援はもとより、ランナーに差し出されるアメ玉や果物が、体力の限界にきているランナーを後押ししてくれる。それは地獄に仏といってよい。
今月二十九日に佐倉朝日健康マラソン大会がある。首都圏にはフルマラソンの大会は少なく、全国から一万人近い参加者が見込まれている。

（巴 安治）

あとがき

ライデンにあるシーボルトハウスを昨年訪れました。ここに彼が収集した日本のコレクション二万点が展示されていました。又、近くにある大学の植物園では、日本から持ち帰った楓が大木となり茂っていました。彼が日本に蒔いた科学する心や西洋医学が、後年ここ佐倉でも花開き立派に成長しました。シーボルトの来日に、政治的な意図があったのは確かですが、わが国

としても得る事の多い交流であつたと思われれます。
パソコンのキーでリハビリは、努力の後に小指が動いた時の感激が伝わりました。
傾聴とは、言葉にされていない事も聴くという事を知りました。介護の苦勞も傾聴が出来るか否かにより、大分違つて来るのではないかと思われされました。
春はあけぼのですね。早起きは三文の得と言いますが、その通りですね。

（横山 詔正）